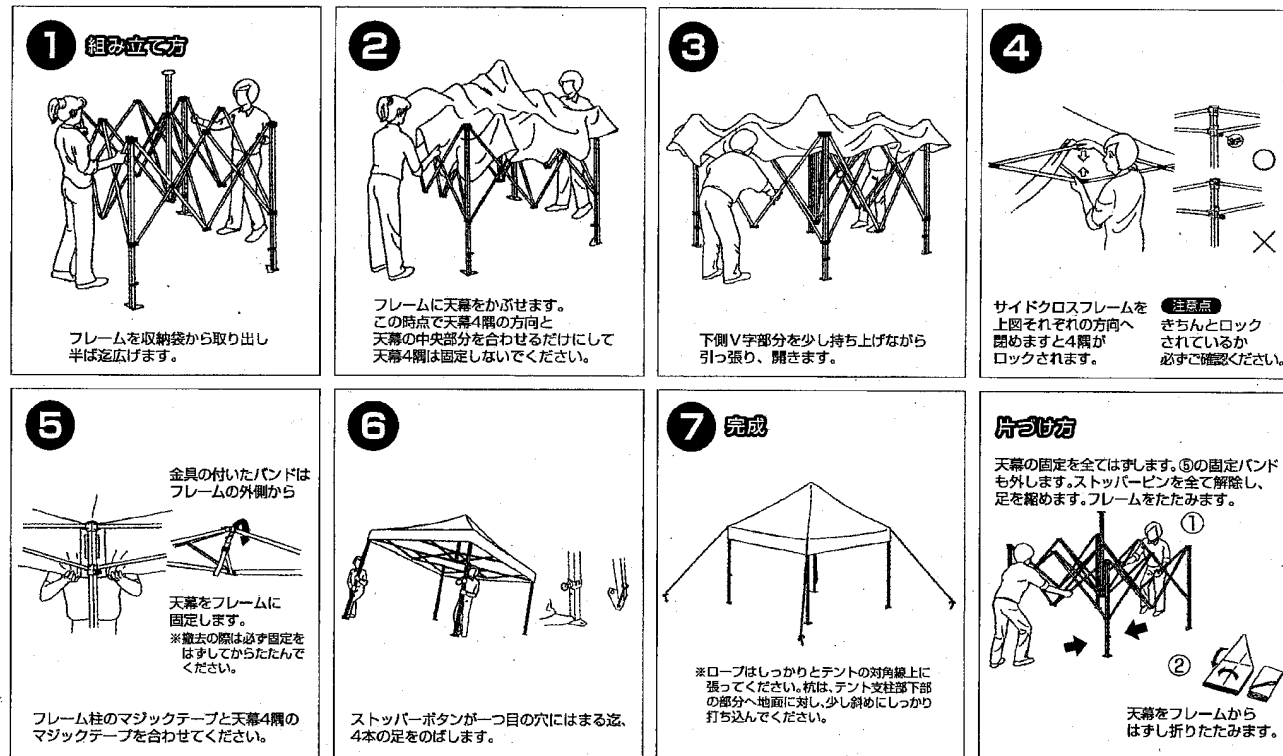


## 2 テントの設営方法



### 設営方法

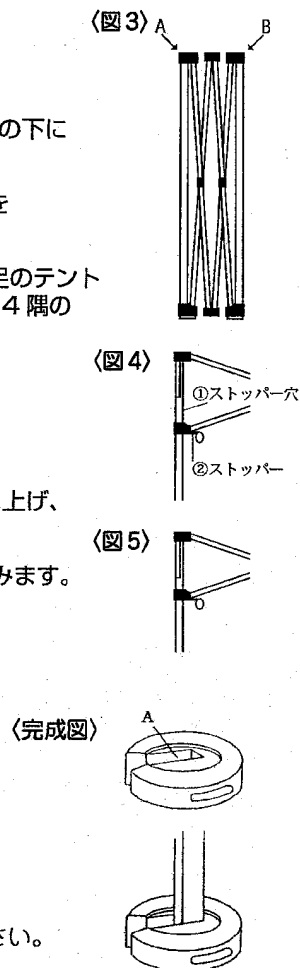
- 右図3のA・Bを持ち、テントを浮かせながらゆっくりと左右に1m位に広げてください。
- 持つ位置を組み立て方③のように持ち替え、テントを浮かせながらストッパーの穴(図4の①)の下にストッパー(図4の②)がくるまでゆっくり広げてください。
- 天幕は、フレーム全体を覆うように付けます。この時点で天幕4隅の方向とテントの中央部分を合わせるだけにして、天幕4隅は固定しないでください。(組み立て方②参照)
- 組み立て方④のように矢印の方向へはさむように力を加えてください。このときに4箇所(6足のテントならば6箇所)にストッパーがロックされているか確認後(図5参照、組み立て方④参照)天幕4隅のマジックテープを固定してください。
- 天幕の内側にあるマジックテープを、内側のフレームに固定してください。バンドで天幕をフレームに固定します。(組み立て方⑤参照)
- 天幕の4隅にあるリングを支線をとるためのロープを結んでください。
- テントの足をご希望の高さまでスライドし、この時、組み立て方⑥のように同方向の足を同じに上げ、その後、残りの片方も同じにスライドしてください。
- ロープは、テントの対角線上に張り、杭は組み立て方⑦のように地面に対し、少し斜めに打ち込みます。この時、ロープは弛まないように張り、砂袋は足の土台に結んでください。

### 重りの設置方法

- 重りのきりこみ部分(右図A)と横にあるとって用の穴をご確認ください。
- フレームの足の部分に、重りのきりこみ部分を奥までしっかりと入れこみます。



重りは(10kg・20kg)あります。手や足等に落としたりしますと、怪我をする恐れがありますので、しっかりと重りのとっての穴に手を入れて持ってください。



## 3 収納・保管方法

- 砂袋もしくは、錆物重りを取り外し、杭を抜いてください。
- テントの足を1番下までスライドさせてください。
- 天幕に結んだロープをほどき、天幕内側のマジックテープを外してください。
- 天幕4隅のマジックテープで固定されている部分をめくり、ストッパーリングを軽く引き、ロックを解除してください。
- 天幕を取り外し、片づけ方①(P2)のように柱を持ち、テントを浮かせながらゆっくり縮めてください。
- 組み立て方①のように柱と柱が両手でつかめるぐらいに縮めた後、図3(P2)のA・Bの部分を持ち、矢印の方向へ押し、広げる前の状態まで戻してください。
- テント本体をキャリーバックに収納して完了です。(天幕のたたみ方は、片づけ方②(P2)を参照してください。)

### 永くお使いいただくために

- 天幕は、取り外して収納いたしますと摩擦する機会が少なくなり長持ちいたします。
- 天幕は、防水処理を施しておりますが、雨などによって濡れた場合は、早めに充分乾かしてから収納してください。放置しつづけますと天幕をいためる恐れがあります。
- 海辺でご使用した後、砂、潮を洗い流してから収納してください。
- 保管時は雨などに濡らさないように気をつけてください。
- テントに過度の負担をかけないようにしてください。
- 天幕を必要以上に伸ばさないでください。
- 天幕は漂白剤の洗剤で洗濯しないでください。色落ちしたり、防水性に支障をきたす恐れがあります。
- 故障に付きましては、各フレーム・部品単位の交換にて対応しております。天幕はオプションにて各カラーを購入できます。

### さらに、安全にお使いいただくために...

強風(風速\*10m/秒以上)時には、ご使用・設営は避けてください。  
 テント本体が倒れたり飛ばされたりし、人に危害が及んだり、周囲の物の破損につながる恐れがあります。なお、風速\*10m(秒)といいますが、実際にはその3倍の瞬間風速30m(秒)以上の突風が吹く可能性がありますので、十分に注意することが必要です。特に、上昇気流のように下方から吹き上がる突風のことも想定した上で準備・対策をとることが望まれます。また、設営時には、ロープ・杭(ペグ)\*1や砂袋・水袋、錆物重り\*2等でテントの支柱を必ず固定してください。予期せぬ強風により、テント本体が倒れたり飛ばされたりしないよう、細心の準備・対策を心がけましょう。  
 \*風速: 10分間の平均風速を指します。瞬間風速は、平均風速の1.5倍から3倍以上になることがあります。

風速10m/秒(～15m/秒)の目安: 時速換算36km(～54km)相当  
 予報用語: やや強い風 屋外・樹木の様子: 樹木全体が揺れる・電線が鳴る 人への影響: 風に向かって歩きにくくなる・傘がさせない 建造物の被害: 取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める  
 (参考)気象庁「風と雨の表」・「ビューフォート風力階級表」

\*1【地面に杭を打ち込む場合】  
 ロープはテントの対角線上にしっかりと張り、杭(ペグ)をテント支柱下部より外側の地面に対し、少し斜め(ロープとはほぼ垂直になるイメージ)にしっかりと打ち込みます。テント全体が地面と一体化されることで、強い耐風性につながります。大雨・長雨時にも、ご使用・設営は避けてください。天幕およびテントフレームが早く損傷します。

\*2【錆物重りの場合】  
 テント支柱に重りの切りこみ部分を奥までしっかりと差し込みます。支柱としっかりと固定できるよう、重りの穴にひもを通して結んで固定してください。